

サ ロ ン

初めてサロンに登場することになったので、20数年かけて収集している「コイン＝現行貨幣」について書くことにする。

コインを収集することになったきっかけは、今使われている貨幣で最も古い（昭和23年の5円硬貨）ものを偶然嫁さんの貯金箱の中に見つけたことであった。集め初めは、友達に頼んだり、買い物に行くたびにお釣りは何年度のものにしてと店の人に無理なお願いをしたり、中には、東京オリンピックの千円硬貨を7倍で購入したり、50円硬貨を60倍以上もかけて購入するなどしたため、嫁さんにバカにされることもしばしばであった。

現在使用できる貨幣をビニールケースに納めたコインセットが1980年から国内でも販売され、また、1987年から鏡のような光沢を背景に、つや消しの模様を浮き出させたプルーフ貨幣セットの販売が始まったため、1年間に普通のコインセットとプルーフ貨幣セットの2種類を購入することになった。さらに、東京オリンピックに初めて発行された「記念コイン」も最近は頻繁に販売されるようになったため、今は、収集することになり疲れてきている心境にある。とは言うものの、造幣局から今度「〇〇記念硬貨の販売をします」との案内がくると、何故か申し込んでしまい、最近も、「天皇陛下御在位十年記念1万円金貨幣、500円白銅貨幣プルーフ貨幣セット」を購入し、人には見せられない顔をして眺めている。

話の種に、現在使用可能なコインについて若干講釈したい。

1円貨幣は、高度経済成長のため大量の貨幣が必要となったことから1955年に発行され、直径20mm、重さ1gの純アルミニウムでできている。

5円貨幣は、1948年に穴のない黄銅貨幣として誕生し、翌年穴あき貨幣となり、1959年に書体が改正され現在の貨幣となった。直径22mm、重さ3.75gの銅と亜鉛でできている。

10円貨幣は、1951年に青銅貨幣として誕生し、8年後に周りのギザギザを取った現在の貨幣となった。直径23.5mm、重さ4.5g、銅、亜鉛、スズでできている。

50円貨幣は、1955年に穴のないニッケル貨幣として発行され、4年後に穴のあいた貨幣となり、100円貨幣が白銅貨幣に改正された同じ年に貨幣系列を整えるために現在の貨幣となった。直径21mm、重さ4gの銅とニッケルでできている。

100円貨幣は、1957年に銀貨幣として誕生し、自動販売機の普及により100円貨幣の需要が急激に増大してきた1967年に現在の白銅貨幣に改められた。直径22.6mm、重さ4.8gの銅とニッケルでできている。白銅貨幣になる前の銀貨幣には約3gの銀が含まれているので、持っている人は大切に保管してみてもいいかな。

500円硬貨は、高額商品を取扱う自動販売機が急速に普及し100円貨幣を上回る高額貨幣が必要となってきた1982年に白銅貨幣として誕生した。直径26.5mm、重さ7.2gの銅とニッケルでできている。この貨幣の誕生により現在使用している貨幣が勢揃いした。

最後に、

昭和64年という年は7日間しかなかった。この昭和最後の刻印のあるコインを見たことがあるかな！

（松田 春美）

* * * *

表紙右上記号 ISSN 0914-8159の説明

ISSN は International Standard Serial Number (国際標準逐次刊行物番号) の略で、逐次刊行物に付与される国際的なコード番号で、ISSD (国際逐次刊行物データシステム) という組織のもとで逐次刊行物の組織や検索に利用されます。この番号は国立国会図書館 I S S D 日本センターから割り当てられたものです。